

# 噫住田正一君 高畑誠一



要職に就かれたときには丁度私のロンドンで執務中の頃、將に世界大戦後の影響は海運界に幾多の受難時代を醸した秋で、私も船舶に關係してしましたので、時折間接に住田君の活躍を耳に聞いていました。同君は剛直なる気性と計画性に富んでいて、充分その天分を若い時代から發揮され、又性来文筆に堪能な秀才でその意見を表現された人。鈴木商店解散後は松方幸次郎、金子直吉両翁等の設立された国際汽船会社の重職に従事され、丁度その当時私も両翁の依頼でロンドン滞在中同社の重役を引受けたので、住田君の活躍はその時代より耳にしていたので、帰朝後も時折会谈する機がありました。

三年交通文化賞、同四〇年一月勳二等瑞宝章を受けられたのは当然と思ふ。海軍大辞回(三卷)、日本海軍叢書(二〇卷)、日本海防史料叢書(一〇卷)、廻船式目等の著書があり、頭のよさを如実に現わされている。何れにしても一九二六年私が帰朝して以来時折面談の機を得、常に得る所多かつた。

氏は資性温厚細心にして恬淡寡黙なれども人情厚く思慮極めて深く稀にみる人格者でありました。交友は余り多からざりしも数少ない友との交りは深く相互信頼の念篤きこと人徳崇高の人でありました。

天命とは申せ斯る立派なる先輩と幽明境を分つ寂しさを一人感ずるのであります。御霊永久に安かれと只管御冥福をお祈してお別れの辞といたします。

昭和四十四年 一月十二日

## 噫芳川さん

### 藤内金次

復興のバラック建ての本店で、南寄りの板張り階段を五段降りた処が外国電信部で、向側に縦二列左がロシヤ部で松永さん、右側が砂糖部で、芳川さんが外電と、砂糖部を兼ねその上支配人として白髪まじりのお髭の英国紳士然として後向きに座しておられた。

机上に積まれたB/Lやインボイス其他の書類にサインを頂くとき、私が左側で一枚一枚めくりながら吸取器を機械的に動かしていたことを今も思い偲ばれる。お家さんが逝去された時、お通夜に同期の代表として中本長三君と私が塩屋の木邸へ弔問に行つた

昨年十二月十六日川端康成氏のノーベル文学賞記念講演の全文が発表されて、世人に大センセーションを巻き起したが、彼の述べる「美しい日本の私」のその序説を読みつづけているうちに「春は花、夏ほととぎす、秋は風、冬雪さえて冷しかりけり」の道元禪師の「本来面目」と題するこの歌にひどく人生観を深めた。將に山河錦を飾らんとする昨年秋十月二日直前迄度々直接面談又は電話などでも話していた日頃敬愛せる住田正一君が突然逝かれたとの悲報に接し、愕然として信じきれなかつた。天寿とは申せまだ喜寿にも達せられず齡七十有余、遂に黄泉の客に旅立たれたことは切実に天に向つて無情を訴えずにはおられない。

住田正一君は学者であり又多くの公職に関与され、備呉造船所相談役、国際汽船取締役、振興造機顧問、日本原子力船研究協会理事、日本造船工業会副会長、矯正保護審議会委員、日経連財務理事、東京都副知事。広島県出身、趣味は考古学特に古代瓦(国分寺)の研究蒐集。

昭和三十一年法博の学位を受けられたのは万人の知る所。同三十

快に会食し談論風発、最もよい話相手であつて、得る所多かつた。

噫々幽明境を異にする住田正一君、永久に安けく浄土の世界に法悦あらんことを謹んで茲に祈るばかりである。

終りに住田正一君に捧ぐるに、一休の道歌を掲げ禿筆の責を果す

こととする。

### 合掌

問へばいふ問はねば言はぬ 達磨どの 心のうちになにかあるべき 一休

昭和四十四年四月

## 故竹村房吉氏を偲ぶ 小野三郎



去る五月三日午後三時四十分突然竹村さんの訃報に接し今更乍ら愛惜の情に堪えません。御遺族の方々の御愁傷如何ばかりならんと御同情の域を越え共感を深く感ずる者であります。

然し竹村さんは約十年の永い間殆ど病床に親しまれ闘病生活を続けられ聖御家族の方々の御手厚き御看護を受けながら神と人とに愛せられつつ八十七才の天寿を完うせられ静かに昇天せられました事は深く敬意を表します。故竹村さんの御略歴を申し上げます

- 一、高知県赤岡町竹村清助氏の五男として明治十六年一月二日生誕
- 一、明治四十年早稲田大学商科を御卒業
- 一、同年神戸鈴木商店入社
- 一、神戸製鋼所、鈴木商店沖繩支店長
- 一、台湾北港精糖代表社員、日本商業株式会社専務
- 一、天満織物、佐賀紡績、三國紡績各取締役兼任
- 一、東京毛織兼て合同毛織常務取締役
- 一、日本人造羊毛常務、日本フェルト株式会社取締役
- 一、日輪ゴム工業専務、山口県防石鉄道監査役兼任
- 一、昭和二十九年現役より隠退し以後悠々自適の生活を送らる

以上の如く竹村さんは若くして浜口雄幸さんが保証人となられ早稲田大学を卒業せられ同氏の精神的薫陶を多分に受けられた事と存じます。又鈴木商店入社後は金子直吉翁に深く愛せられ信任され其片腕となり幾多の事業に参画せられ右記の如く沖繩支店長を皮切りに日商岩井株式会社の前身である日本商業の創設を始め台湾に於ける製糖事業、佐賀、三國、天満の紡績事業に又東京に於ける、合同毛織の常務として重責を果し更に大分県八代に日本人造羊毛を起し日輪ゴム、日本フェルト、防石鉄道に至る迄我経済界に貢献せられたことは枚挙に暇ありません。

御子弟は父君の御遺志を継がれ、各方面に御活躍夫々社会に貢献せられつつある事はとりも直さず竹村さんが若くしてキリスト信仰に入られし賜らむと確く信する者であります。

## 井上与之助君逝く



昭和四十四年五月七日一寸太陽鉦工KK大阪支店へ立寄つたら沢村老は不在で、樽谷勘三郎氏と橋本知一郎氏が話していた。割込んで先般松山市へ墓参に帰郷した際、初めて内子町(高畑さんの古里)を経由山桜の大樹満開の素晴らしい夜昼時を越して、八幡浜市へ行ったことなど話していたら会社から電話あり、「大阪商業信用組合理事長神戸一郎氏(筆者と凌霜の十四期生で共に兵庫支団員)よりの電話で、昨六日同期生井上与之助氏が郷里(兵庫県揖保郡太子町)の病院にて肝硬変で逝去。明日八日午後一時二時自宅にて告別式が行われるとのことと。」

昭和四十四年五月七日一寸太陽鉦工KK大阪支店へ立寄つたら沢村老は不在で、樽谷勘三郎氏と橋本知一郎氏が話していた。割込んで先般松山市へ墓参に帰郷した際、初めて内子町(高畑さんの古里)を経由山桜の大樹満開の素晴らしい夜昼時を越して、八幡浜市へ行ったことなど話していたら会社から電話あり、「大阪商業信用組合理事長神戸一郎氏(筆者と凌霜の十四期生で共に兵庫支団員)よりの電話で、昨六日同期生井上与之助氏が郷里(兵庫県揖保郡太子町)の病院にて肝硬変で逝去。明日八日午後一時二時自宅にて告別式が行われるとのことと。」

帰宅後今村冬三郎氏(凌霜会員、凌霜十二期、兵庫支団)に井上君の件を電話した。応急策として筆者に兵庫支団京阪地区を代表して弔問に行くように要望された。まもなく姫路市兵庫製紙株式会社長山次郎氏(凌霜明治四十四年卒、兵庫支団)より電話あり明日告別式に於て凌霜会姫路支部代表としての弔詞を要望された。「聞けば君は同期生で鈴木商店に大正九年四月、一緒に入社したそうだが」と色々問い合せられたので然るべく答えた。